別紙参考様式２

令和５年度研究推進計画

学 校 名　　東広島市立平岩小学校
学校長名　　柏木　俊明

１　研究主題，研究内容・方法等について

（１）研究主題

自分事として考える社会科の授業づくり　～意図的な学び合いを充実させる工夫を通して～

（２）主題設定の理由

平成 29 年７月告示の小学校学習指導要領では，社会科の目標を「社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のように養う。」とし，「知識及び技能」，「思考力・判断力・表現力等」，「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿った資質・能力に関わる具体的な目標で構成されている。

変化の激しい社会を生き抜くこれからの子どもたちには，広い視野に立ち国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育むことが必要である。その基礎を養う小学校社会科においては，個別の事実等に関する知識のみならず，それらを使いこなしていく力を育成することや課題を追究したり，解決したりする学習を通して「社会的な見方・考え方」を成長させていくことを主眼に置いた社会科の充実が求められる。

本校では昨年度の研究主題を，「笑顔で考え続ける社会科の授業づくり　～意図的な学び合いを充実させる工夫を通して～」とし，社会科における教育研究を推進してきた。その成果と課題は次のとおりである。

【成果】

・驚きと疑問と発見を生む資料を，児童が十分に読み取り活用することができるよう，教師が意図的に資料を作成し，提示をすることが，社会科の本質に向けて考え続ける授業づくりにつながることが分かった。
・授業の各場面において，指導者が問いを吟味し，ねらいを明確にした資料や教材を提示することにより，児童が主体的に考える授業を成立させることができた。
・「学び合い」の手立てとして資料の活用を工夫したり、「学び合い」を授業に取り入れたりしたことで、自分の考えが深まったり知識が高まったりしたことを実感できた児童が増えた。

【課題】

・グループ学習を「学び合い」と捉えていたため，話合いや伝え合いに留まり，児童の意見を共有するだけの活動になってしまった。そのことによって学びが深まらず，知識の質を高めていくという目的を達成することができない児童が多かった。
・本時だけで「学び合い」を考え，単元を通して学び合う必然性をもたせられなかった。また，単元を貫く問いと単元の目標を見据えて「学び合い」を設定していなかったため，単元の中での「学び合い」の位置付けが明確になっていなかった。

・児童の実態を正確に捉えておらず，ねらいを達成するために必要な資料や問いを事前に準備しておくことが不足していた。

これらのことを踏まえ,児童の社会的な見方･考え方を成長させ,公民的資質の基礎を育むために,今年度の研究主題を「自分事として考える社会科の授業づくり　～意図的な学び合いを充実させる工夫を通して～」とし，研究を推進することとした。本校がこれまで培ってきた社会科授業の工夫・改善を図り，更なる向上を目指すために，社会科の授業において「学び合い」の質を高めるための工夫を研究することにより，児童が社会的事象とより主体的に関わり，考え続け，よりよい思考へと深め合いながら，社会科の本質へと迫っていく授業づくりができると考えている。児童が様々な課題を自分事として主体的に考え，解決に向けて学び合うことを通して，一人一人が達成感を味わうことのできる授業を創り上げていく。

（3）研究仮説

教師が意図的に社会科における「学び合い」の質を高め，児童が主体的に考え続ける授業を創り出せば，児童は社会的事象の特色や意味，理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる社会的な見方・考え方を獲得することができるであろう。

（4）研究内容

社会科における学び合いの質を高めるための工夫

・単元の目標を達成するための「学び合い」を単元計画に明確に位置付ける。
・学級の児童の実態を正確に捉え,「学び合い」の前後の児童の変容を明確にする。
・単元や本時における児童に身に付けさせたい知識を明確に設定する。
・身に付けさせたい知識に応じた質の高い問いを設定する。
・身に付けさせたい知識に応じた資料の精選・活用方法を工夫する。
・ねらいに沿った思考場面の設定
　資料相互の関連，他者の考えとの比較，習得した知識の総合など

低学年部（国語科）における学び合いの質を高めるための工夫についても，昨年度の反省から，以下のような工夫をして「学び合い」を行っていく。

・単元の目標やそれぞれの時間で身に付けさせたいことを明確にして単元を構成する。
・児童の実態に合った言語活動を設定する。
・自分の考えをもたせるために，発問や言語活動などを工夫する。
・社会科での「学び合い」につなげていくために,「読むこと」の領域に限らず指導の充実を図り，基礎的な力を高めていく。
・ねらいに沿った思考場面を設定する。
　叙述の関連，場面ごとの比較，考えの分類など

（5）検証の方法及び指標

検証の視点	方法	検証の指標	達成目標
指導者の学び合いの質を高めるための手立て 児童の学び合いの姿	授業評価票	教師の肯定的評価	評価票3以上
児童の資料活用能力	単元テスト	思考・判断・表現を問う問題	正答率 80%以上の児童を学級の８割以上
児童のまとめや振り返りの内容	児童の実態調査	児童の記述	目指すまとめや振り返りができる児童80%以上
児童の意識	児童アンケート	児童の肯定的評価	児童の肯定的評価3以上

２　検証計画

検証時期	検証内容	検証方法
６月	児童の実態把握	児童アンケート
６月～１２月	校内研究授業	研究協議・授業評価票・児童のまとめや振り返り 単元テスト
１２月	児童の実態把握	児童アンケート
	研究のまとめ 成果と課題の分析	児童アンケート・単元テスト 授業評価票・児童のまとめや振り返り

３　校内研修計画

月　日	曜日	研修スタイル	主な研修内容	指導者
4月5日	水	研究推進委員会	校内研修計画及び研究主題について	
5月11日	木	全体研修	校内研修計画及び研究主題について	教務研修部
6月29日	木	全体研修	指導案様式、起案について６年部指導案検討	教務研修部
7月13日	木	全体研修	６年部提案授業	
7月27日	木	ブロック研修	各ブロックで指導案検討	教務研修部
7月28日	金	ブロック研修	各ブロックで指導案検討	教務研修部
7月31日	月	ブロック研修	各ブロックで指導案検討	教務研修部
8月4日	金	全体研修	研究授業のまとめについて	教務研修部
8月23日	水	ブロック研修	各ブロックで指導案検討	教務研修部
8月24日	木	ブロック研修	各ブロックで指導案検討	教務研修部
8月25日	金	ブロック研修	各ブロックで指導案検討	教務研修部
9月7日	木	ブロック研修	５年部提案授業	教務研修部
9月14日	木	全体研修	あおぞら提案授業	
9月21日	木	ブロック研修	１・３年部提案授業	教務研修部
9月22日	金	全体研修	２年部提案授業（中堅研修と兼ねる）	

9 月 28 日	木	全体研修	４年部提案授業	
10 月 19 日	水	ブロック研修	１・あおぞら・６年部提案授業	教務研修部
10 月 26 日	木	全体研修	５年部提案授業	
11 月 16 日	木	全体研修	３年部提案授業	
11 月 24 日	金	全体研修	専科（理科）提案授業	教務研修部
11 月 30 日	木	ブロック研修	２・４年提案授業	教務研修部
12 月 7 日	木	全体研修	１年部提案授業	
12 月 14 日	木	ブロック研修	２・３年部提案授業	教務研修部
12 月 25 日	木	全体研修	研究紀要について	教務研修部
1 月 11 日	木	全体研修	研究紀要作成（見直し）	教務研修部
1 月 25 日	木	全体研修	研究紀要作成完了	教務研修部
3 月 14 日	木	全体研修	今年度の振り返りと来年度へ向けて	教務研修部

※日程変更は随時行う

４　研究公開の予定について

特になし